

平成二十六年 度

江戸川女子中学校 入学試験問題

国 語 (50 分)

(注意)

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 受験番号、氏名を解答用紙に書きなさい。
- 3 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 4 字数指定のある設問はすべて、句読点等を字数に含む。

一

次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 悪事にカタンする。
- ② 熱が出てオカンがする。
- ③ 先方のイコウをくみ取る。
- ④ 業績悪化でインセキ辞任した。
- ⑤ 食事は各自でジサンして下さい。

二

次の意味を表す四字熟語となるように、空欄に適する漢字を答えなさい。

- ① 弱い者が強い者のえじきになること。【弱□強□】
- ② 手がかりがないまま、あれこれと試みること。【□□模索】
- ③ 自分では努力せず、他人の力ばかりあてにすること。【他力□□】
- ④ 恥知らずで、ずうずうしいこと。【□□無恥】
- ⑤ 自由自在に現れたり見えなくなったりすること。【□□鬼没】

三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

科学者をめざすためには、まず科学（サイエンス）が何であるかを正しく知る必要がある。

サイエンス（science）の語源はラテン語で「知識・原理（scientia）」で、「分ける（scindere）」ことに関係している。日本語でも、「分かる」という言葉が「分ける」や「分かつ」と関係しているのは興味深い。

科学で「分かる」と言う場合、確かに対象となる自然現象を分けながら理解している。□ X □、「ここまでは分かる、ここから分からない」という線を引き、少しずつ分かる部分を増やしていくのが科学研究だと言える。しかし、対象が複雑な場合は、①一筋縄では②いかな。③謎が謎を呼んで、分かろうとしているのに、逆に分からないことの方がたくさんあることが明らかになることも多い。

科学が分けることならば、④対象を分けてうまく分類ができてしまえば科学研究は終わるかという、そんなことはない。□ Y □分類することは科学研究の始まりであって、終わりではないのである。科学は常に、分類の先に⑤一歩踏み込んだものを必要とする。

たとえば、蝶をたくさん集めたでしょう。まず、図鑑と照らし合わせて蝶の名前を調べ、色や形で分類して、生息地や採集時期を正確に記録すれば、蝶に対する経験的な知識は、かなり深まることだろう。しかし、これでは蝶のコレクターと変わらない。単なるコレクターから科学者に脱皮できるかどうかは、その先の分析にかかっている。

蝶に共通した固有の性質（たとえば、羽にある鱗粉）を見つけ、それがどのような法則によって多様に変化するかを考えること、それが分析である。多様性の根底にある法則を発見するためには、対象の本質をとらえる分析力が必要となる。つまり、科学研究を一言で表すならば、「自然法則の解明」に他ならない。物理学者 R・P・ファインマンの次の言葉は分かりやすい。

自然を理解しようとするときの一つのやり方は、神々がチェスのようなすぐれたゲームをやっているのを想像してみることです。こうした観察からゲームのルールや、駒の動きのルールがどうなっているかを分かうとするわけです。

このように、自然界のルール、すなわち自然法則を「分かる」ことが、科学研究である。

科学について、『広辞苑（第五版）』では、「体系的であり、経験的に実証可能な知識。物理学・化学・生物学などの自然科学が科学の A である」とされるが、経済学・法学などの社会科学、心理学・言語学などの人間科学もある」と定義している。確かに科学そのものは「体系的であり、経験的に実証可能な知識」であるが、科学研究は、知識を越えたその先の「分かる」という領域にある。だから、科学研究は、科学という知識体系と区別して考える必要がある。

また、この世界が「分かる」という確信を持つか持たないかで、学問に対する心構えは大きく変わらう。だから、^④ 学生の時にできるだけたくさん「分かる」という経験を積んでおくことが大切だ。分かった時には、ある種の爽快感や感動を覚えることが多い。^⑤ これは、数学や物理の問題がうまく解けた時のように、分ければ十分な確信度をもって分かる、つまり「分かることは一〇〇パーセント分かる」という感覚である。

だから、分かった内容や知識ではなく、この「分かる」という深い理解の積み重ねこそが、将来の科学研究の B となる。「C より理解」、すなわち「知るより D」ということが科学研究には大切なのである。

多くの人は、科学は正しい事実だけを積み上げてできていると思うかもしれないが、それは真実ではない。実際の科学は、事実の足りないところを「科学的仮説」で補いながら作り上げた構造物である。科学が未熟なために、^⑥ 本来必要となるべき鉄骨が欠けているかもしれないのだ。新しい発見による革命的な一揺れが来たら、いつ倒壊してもおかしくない位である。

だから、「科学が何であるか」を知るには、逆に「何が科学でないか」を理解

することも大切だ。科学は確かに合理的だから、理屈に合わない迷信は科学ではない。それでは、占いや心霊現象についてはどうだろうか。

^⑦ 占いは、当たらないことがあるから非科学的なのではない。天気予報は、いつも正確に予測できるとは限らないが、科学的な方法に基づいている。また、お化けや空飛ぶ円盤の存在は、科学的に証明されていないわけだが、逆に「お化けが存在しない」ということを証明するのも難しい。 Z、いつでもどこに現れるかも分からないお化けを徹底的に探すことはできないわけで、結局見つからなかったとしても、「お化けが存在しない」と結論するわけにはいかない。ひょっとして今この瞬間に自分の目の前にお化けが現れるかもしれないからだ。

哲学者の K・R・ポパーは、科学と非科学を分けるために、次のような方法を提案した。反証が可能な理論は科学的であり、反証が不可能な説は非科学的だと考える。検証ができるかどうかは問わない。

そもそも、ある理論を裏つける事実があったとしても、たまたまそのような都合の良い事例があっただけかもしれないので、その理論を「証明」したことはない。しかも、ある法則が成り立つ条件を調べるとしても、すべての条件をテストすることは難しい。むしろ、^⑧ 科学の進歩によって間違っていると修正を受けうるものの方が、はるかに「科学的」とあると言える。

一方、非科学的な説は、検証も反証もできないので、それを受け入れるためには、無条件に信じるしかない。科学と非科学の境を決めるこの基準は、「反証可能性」と呼ばれている。反証できるかどうかが科学的な根拠となるというのは、逆説めいていて面白い。

たとえば、「すべてのカラスは黒い」という説は、一羽でも白いカラスを見つければ反証されるので、科学的である。しかし、「お化け」が存在することは検証も反証もできないので、その存在を信じることは非科学的である。逆に、「お化けなど存在しない」と主張することは、どこかでお化けが見つければ反証されるので、より科学的だということになる。

（酒井 邦嘉「科学者という仕事」による）

問4 — ⑤「これは」に対する述部はどれか、次の a～f から一つ選び、記号で答えなさい。

⑤ これは、数学や物理の問題がうまく ^a 解けた時のように、 ^b 分かれれば十分な確信度をもって ^c 分かる、つまり「^d 分かることは一〇〇パーセント分かる」、という ^e 感覚である。

問5 — B に入れるものとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 血となり肉
イ 肉となり皮
ウ 皮となり骨
エ 骨となり血

問6 — C に入れるものとして、最適な語を本文中から三字以内で抜き出しなさい。

問7 — ⑥「本来必要となるべき鉄骨」とは何をたとえたものか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 科学として積み上げられた事実。
イ まだ発見されていない事実。
ウ 事実だけで成り立っている科学。
エ 科学的仮説で補った構造物。

問8 — ⑧「科学の進歩によって間違っていると修正」することを本文中で別の表現をしている。その語を抜き出しなさい。

問9 ― ②「対象を分けて……そんなことはない」とあるが、「科学研究」の「終わり」は何だと筆者は考えているか、最適な語句を本文中から十字以内で抜き出さない。

問10 ― ③「一步踏み込んだもの」とは何か、最適な語を本文中から抜き出さない。

問11 ― ④「学生の時にできるだけたくさん『分かる』という経験を積んでおくことが大切だ」とあるが、それはなぜか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 学生の時の分かり方は、一〇〇パーセント分かるという感覚で、その時の感動は非常に大きいから。
- イ 若い頃、分かった時に感じる爽快感や感動は、年を取ってからでは感じるできないから。
- ウ 世界が「わかる」という経験をした時の感動が、その後の学問に対する姿勢を決定づけることがあるから。
- エ 学生の時の「わかる」という経験をたくさん積んでおく、その経験が将来の人生に役立つことがあるから。

問12 ― ⑦「占いは、当たらないことがあるから非科学的なのではない」とあるが、ではなぜ非科学的なのか、解答欄に適するように、これ以降の本文中から十字以内で抜き出さない。

四 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

十二月に入ったある晩。

僕は、掘りごたつで漢字の書き取りの宿題をしていた。母さんは台所で夕食の後片付けをしていて、父さんは僕のそばに寝転がってテレビのニュースをつけたところだった。ボリュームを絞ったテレビから、男の声が流れ出す。

「それから、このところ日本でも少しずつ症例が報告され始めたのが、当初はアレルギーの一種かと思われた例の症候群ですが」

ゲストの教授は、僕にはよくわからない外国語の病名を言った。

「体じゅうに赤い発疹が出て、咳が止まらず、日に日にやせ細って衰弱していく。接触などでは感染しませんが、恐ろしいのは肺炎を併発しやすいことと、それに発病してから死に至る期間が比較的短いことです」

① 心臓がばくばく暴れはじめた。言葉の全部は理解できなくても、とてもないことを言ってるらしいことだけはわかった。

「それで、治療法は見つかったんでしょうか」

「いや、残念ながら、これといったものはまだ見つかっていません。対症療法が精一杯というのが実情です。じつはですね……私は、この新しい病気には、近年の地球環境の激変が何らかの形で関係しているのではないかと考えているんです。げんに、WHOの調査を見ましても……」

教授はごそごそとテーブルの下から別のボードを出して、いろんな国の名前が並んだ表を指さした。

「ご覧のように、大気や水、あるいは土壌などの汚染が問題になっている地域の人々のほうが、明らかに発病率が高いですね。乱暴な言い方かもしれませんが、A 言いますならば、これは、我々に対する自然からの罰なのかもしれないと……」

「罰、とおっしゃいますと？」

「つまり、人間のおごりが招いた強烈な しっぺ返しと申しますか」

③ 何だよそれ、と、思わず声に出してしまった。

問13 ― ⑨「面白い」とあるがそれはなぜか、次の空欄に適する語句を、指定の字数で本文中から抜き出さない。

A (二字) は一見、B (五字) だけでできていて、C (二字) の必要がないと思われるが、実はC (二字) できることが、A (二字) であるための根拠となるから。

問14 本文は前半に「科学研究と科学の違い」、後半に「科学と非科学の境」という小タイトルがつけられていた。これを参考にして、後半はどこから始まるか、その初めの五字を答えなさい。

父さんが、え？ と首をもたげて僕を見る。

「何でもない」

僕は、漢字のドリルをぱたんと閉じた。

その拍子に、はさんでいた写真が一枚、こたつ布団の上に落ちた。あつ、と思うより先に、父さんの手が伸びる。

「なんだ、こりゃ」見るなり父さんは噴きだした。「ずいぶん派手な車だな」それは、ノリオのポラロイドカメラで撮ったタイムマシンの写真だった。ハンドルと、タイヤがやっと一っだけついたところで、とりあえずみんなで記念撮影をしたのだ。三人ともがバスタブにぎゅうぎゅう詰めになり、オートタイマーのカメラに向かってピースをしている。心の中ではもちろん、カメラじゃなくてB に向かってピースをしたつもりだった。

「公太くんのところのガレージか」父さんはビントのずれたことを言った。「遊ぶのはいいがケガするなよ。それと、働いてる人の邪魔にならないように。はは、こりゃなかなかいい車だ」

返された写真を、僕は黙ってドリルにはさみ、ノートをたたんだ。

鉛筆を筆箱にしまつて、消しゴムのかすをゴミ箱に捨てにいく。

戻ってきて勉強道具を手を持った……その時だった。自分でもびっくりするくらい何の前ぶれもなしに、うわつと涙があふれ出た。

「ど、どうした」僕の泣き声を聞いて、父さんが慌てて起きあがった。「おい、ワタル、どうしたんだ。……おい秀子。秀子！」

「何よ、大声出して」

台所のスポンジをつかんだまま飛んできた母さんが、僕を見るなり言った。

「あらやだ、またなの？」

またなの、と言われても、どうしようもなかった。二人ともが僕をもてあましているのがわかったけれど、それでも本当にどうしようもなかった。僕自身が、自分をもてあましていた。体じゅうの血管がどくどく脈打って、息が苦しくてたまらなかった。

困ったように立っていた母さんは、やがてかがみこみ、両手の泡がつかないよ

うにして僕を抱きかかえてくれた。そうしながら小声で、いったい何があったのよ、と父さんに訊く。知らないよ、テレビを見てたら急に、と父さんがもごもご言う。だから宿題の時はテレビつけないでって言ったじゃないの。いや、そういう問題じゃないだろ。

頭の上でくり返されるやり取りを聞きたくなくて、僕は赤ん坊の昔に戻ったみたいに母さんの胸に顔をうずめた。母さんは顔を僕のそれに押しあて、「ちよっと風邪気味なのかもしれないわね」とささやいた。「今夜は早く寝なさい。お布団してあげるから、ね」

結局僕は、お風呂にも入らずに寝ることになった。暗闇で天井をにらんでいると、隣の部屋で母さんと父さんがぼそぼそと何か話しているのが聞こえた。

涙はもう引つこんで乾いていたけれど、わけのわからない苛立たしさのほうはいつまでも消えなかった。心臓が痛くて、奥歯を食いしばっていないと今にもわめきだしてしまいそうだった。

閉じこめたはずの言葉がのどの奥のほうで暴れまわり、隙さえあれば口から飛び出そうとする。

「何だよ、しつぺ返して！」

「何なんだよ、罰って！」

「そんなこと、ヤンチャといたい何の関係があるっていうんだよ……！」

「あとはこれに、頑丈なフタをつければ出来上がりかな」

おぼさんが病室を出て行った際に、ノリオはランドセルから前の日撮った写真を取り出して報告した。

「くそう、早く本物を見たいなあ」

ヤンチャは④悔しそうに言った。

僕らから作業の経過を知らされるようになって以来、ヤンチャはずいぶん元氣を取り戻したように見える。咳が出るのも、食欲がないのも、赤くて痛痒いポツポツが出てるのも相変わらずだったけれど、少なくとも気持ちだけはしゃんとしてきたみたいだ。

ているか、僕らがどんな思いであれを作っているか……大人は Z わかっちゃくれない。あの晩の父さんがそうだったように。

「関係ないだろ」

とうとう、ノリオが言った。すごく C な口調だったのに、

「関係なかあねえさ」おっちゃんは怒った様子もなかった。「もしもこの世にタイムマシンなんてもんがあるんなら、一番先に乗せてもらいてえからね」

「一番はヤンチャだよ」

つるつと口をすべらせたハム太を、ノリオと僕が両側からこづく。

「なら二番目でもいいやね」

と、おっちゃんは言った。少し笑ってはいたが、馬鹿にしているふうではなかった。

僕は思いきって訊いてみた。

「どうしてタイムマシンに乗りたいの？」

⑦ノリオが袖を引っぱるのがわかったけれど、無視して続ける。

「やっぱり、未来の世界へ行つて病気を治したいから？」

「いんや」と、おっちゃんは言った。「そんな見たこともねえようなところなんざ行きたかねえね。俺が行くとしたら、過去のほうさ。そうさな、二十年か三十年くれえ前の世界へ、ひよいつと飛べたらありがてえね」

「さん・じゅう・ねん？」とノリオ。「そんな大昔へ行つて、いったい何をしようっていうのさ」

「何をつて、おめえ……そりや、いろいろやり直せるんじゃないかと思つてよ」そう言つて、おっちゃんは苦笑いしながら窓の外を見やった。やり直したいことがいっぱいあるのかな、と僕は思った。

「それよか、いつそのこと、怒鳴りこんでやるつてのもいいな」と、おっちゃんは言った。

「三十年後の世界が、どれつくれえひでえことになってるか、⑧連中に思い知らせてやるのさ。『どうしてくれんだ、てめえらが好き勝手にしてくれたせいで俺らが⑨尻拭いさせられてんだぞ』ってね」

「いいなあ、オレも一緒に作ってたなあ」
「治つたら、また何だつて一緒にできるよ」
と僕が言うのと、

「うん……」ヤンチャは窓に目をやった。「けど、いつになったら治るんだろうな」

窓辺には、きれいに飾りつけられた小さなモミの木が置いてあった。もうすぐクリスマス・イヴ。ヤンチャの入院から、もう四か月がたとうとしている。

「さてはお前、オレたちを信用してないな？」ノリオが、⑤わざと怒つたようなふりをして言った。「タイムマシン、お前のために作つてやつてるんだぞ。あれが完成してみる、お前の病氣なんかすぐ治る」

「うん。そうだよな」

ヤンチャがにつこりした。その時、

「タイムマシンか……」

聞き覚えのない声に、僕らは慌ててふり返つた。

さつきまで横になつて寝ていたはずの隣のおじさんが、起きあがつて僕らを見ていた。これまで僕らがここへ来た時、おじさんは X 待合室でたばこを吸っているか、ベッドにいても一言も話したことはなかったのに。

うちの父さんよりだいたいぶ年上のように見えるその人は、へおじさん」というよりへおっちゃん」という感じの人だった。前にヤンチャから聞いたところによると、仕事は大工さんらしい。

でも、その人も今は、やっぱりガリガリにやせてしまっていた。顔や胸に赤い発疹があるのも、しょつちゅう咳をするのもヤンチャと同じだ。

「タイムマシン、か」と、おっちゃんはもう一度くり返した。「いいな。おめえらが作つてんのかい？」

ハム太がノリオを、ノリオは僕を、僕はヤンチャを見た。みんな黙っている。

理由も Y 一緒だった。「そうだよ」と認めたりしたら、大笑いされそうな気がしたのだ。ヤンチャの前で、あれのことを馬鹿にされるのは我慢ならなかった。というより、⑥怖かった。ヤンチャがどれほどあれを気持ちの支えにし

「尻拭い」

僕は口の中でつぶやいた。

——しりぬぐい。

「そ……そりやないよ」とハム太が言った。「だってさ、そんなのつてフコ……ええと、不公平じゃないか」

するとおっちゃんは窓から僕らに目を移して、へつと頬をゆがめた。

「そうさな。そりや、おめえらの言う通りなんだろうけどよ。ただ、このごろ俺あ思うようになったよ。『不公平』つてのはもしかして、『人生』つてやつ別の呼び方なんじゃないかってね。へへっ、こりや我ながら名文句だ」

「ごそごそと布団をたくしあげ、しんどそうに横になると、おっちゃんは低くかすれた声で言った。

「ま、気にすんな。おめえらには、まだわかんなくていいこつたよ」

(村山 由佳「約束」による)

問1 — ②「しつぺ返し」の意味として、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大きな欠点があること。
- イ うらみを晴らすこと。
- ウ 仕返しをすること。
- エ おうへいにふるまうこと。

問2 C に入れるものとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア トンチンカン
- イ つっけんどん
- ウ のっぺらぼう
- エ 調子はずれ

問3 — ⑨「尻拭い」の意味として、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 重労働
- イ 後始末
- ウ 節約
- エ 苦勞

問6 — ③「何だよそれ、と、思わず声に出してしまった」とあるが、このときの気持ちとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア テレビから聞こえてきた、まったく予想もしていなかった内容に、びつくりして戸惑う気持ち。
- イ 自然からの罰が、なぜヤンチャに降りかからねばならないのか、というやり切れない気持ち。
- ウ テレビの視聴者の気持ちを考えず、勝手なことばかり言っている教授を、腹立たしく思う気持ち。
- エ 「おごり」とか「しつぺ返し」とかの言葉の意味が、とっさには理解できず、とまどう気持ち。

問7 B に入れるものとして、最適な語句を本文中から抜き出さないさい。

問8 — ⑤「わざと怒ったようなふりをして言った」とあるがそれはなぜか、次の中からあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ヤンチャのことを本心から心配して作っているということを、はっきりと本人に分からせるため。
- イ 弱気になっているヤンチャに、本当に元気になつてもらいたいことを分かつてほしいから。
- ウ 元気になつてほしいという僕らの気持ちを、あまり信用していないヤンチャに不信感をもったから。
- エ 病気が治ることを、あきらめかけているようなヤンチャを、たしなめるため。

問4 — ①「心臓がばくばく暴れはじめた」とあるがそれはなぜか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア テレビから流れてくるニュースが、とても恐ろしい内容だったから。
- イ もしも例の症候群に自分が感染したらと思うと、恐ろしくなったから。
- ウ 例の症候群に、自分の友だちが感染しているのではないかと思われたから。
- エ 病名も知らない恐ろしい病気が大流行したら、大変なことになると思ったから。

問5 A に入れるものとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア あえて誤解を受け入れて
- イ あえて誤解を恐れずに
- ウ しいて誤解をさせて
- エ しいて誤解を恐れて

問9 — ⑦「ノリオが袖を引っぱる」とあるが、その理由として最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア なぜ乗りたいのか聞いても、おじさんのことを乗せてあげられないのは分かりきっているから。
- イ おじさんの話を聞いたなら、タイムマシンに乗せてあげなければならなくなるのではないかと思ったから。
- ウ タイムマシンを作っている計画がばれて、大人たちに中止させられるのではないかと恐れたから。
- エ おじさんがどうしてタイムマシンに興味を持つのか、その真意がわからず不安だったから。

問10 X ・ Y ・ Z に入れることばの組み合わせとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----|------|---|------|---|-----|
| ア X | たいてい | Y | たぶん | Z | どうせ |
| イ X | ときどき | Y | おそろく | Z | きつと |
| ウ X | ほとんど | Y | どうせ | Z | たぶん |
| エ X | たいてい | Y | きつと | Z | やはり |
| オ X | ときどき | Y | おそろく | Z | きつと |

問11 — ④「悔しそうに」とあるがそれはなぜか、次の空欄に適する語句を自分で考えて、指定の字数で答えなさい。

a (六字以内) ために b (十字以内) を見られないから。

問12 ― ⑥「怖かった」とあるが、なぜこのような気持ちになったのか、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア タイムマシンなど、できるわけがないという現実をつきつけられたら、ヤンチャや僕らの気持ちがなえてしまうような気がしたから。

イ タイムマシンの完成を一番楽しみにしているヤンチャが、隣のおじさんに対して、怒り出すのではないかと思ったから。

ウ 病室で隣同士のヤンチャとおじさんが、このあと気まずくなるのではないかと心配になったから。

エ タイムマシンはできないかと思っている僕らと、できたらいいと願っているヤンチャの気持ちに、すれ違いが生じるのではないかと恐れたから。

問13 ― 部⑧「連中」とは誰のことか、十五字以内で説明しなさい。

受験番号

氏 名	
-----	--

得	点
採 点	点 検

①	
②	
③	
④	
⑤	

④	①
	弱
無	強
恥	
⑤	②
鬼	模
没	索
	③
	他
	力

問 6	問 1
C	X
	Y
D	Z
	問 2
問 7	問 3
問 8	問 4
	問 5

問 13	問 12	問 9
A		
B		
C		
問 14	だから。	問 10
		問 11

問 1			
問 2			
問 3			

問 4	
問 5	
問 6	
問 7	
問 8	
問 9	

[illegible]

2 点
3 点
4 点